あきたキッズプログラミングアワード

全国出場は長谷川さん(鷹巣小)

県内の小中学生を対象にしたプログラミングコンテスト「あきたキッズプログラミングアワード」(秋田魁新報社主催、秋田大、県立大、秋田高専共催)の最終審査が22日、秋田市のアルヴェで開かれた。2部門あるうち、アイデア部門は傳農紅雪さん(西明寺小6年)、ソフトウエア部門は佐久間柊介さん(城東中1年)がそれぞれ優勝。両部門を通じ小学生で最も優れた発表をした長谷川衣梨さん(鷹巣小5年)は、来年3月3日に東京で開かれる「全国選抜小学生プログラミング大会」に出場する。

V 傳農さん(西明寺小) アイデア部門

佐久間さん(城東中) ソフトウエア部門

コンテストのテーマは「みんなのみらい」。実現可能なアイデアを競うアイデア部門と、オリジナルソフトウエアの発想力や完成度を競うソフトウエア部門の2部門で行われた。過去最多となる141組の応募の中から選ばれた11組が審査に臨んだ。

コンテストは今回で5回目。参加者は大学教授ら審査員6人の前で、自分の作品への思いや作品の機能についてプレゼンテーションした。

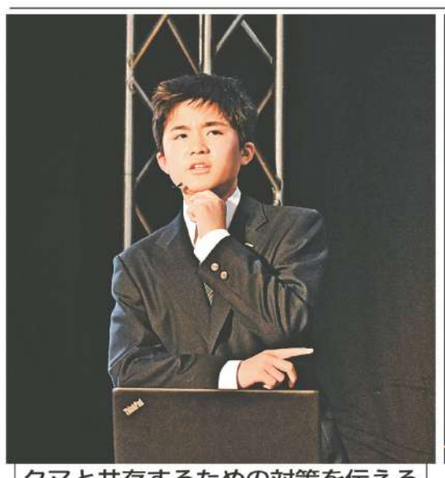
傳農さんは、健康を維持する上で大切な水分補給を忘れないよう、スマートフォンと水筒をアプリで連動させる方法を提案。必要な水分摂取量を知らせてくれたり、水筒の色を気分によって変えたりすることができるというアイデアを発表した。

佐久間さんは、昨年に続き2度目の優勝。相次ぐクマの人身被害に問題意識を抱き、人とクマが共存するための対策を学べるインターネット上の仮想空間「メタバース」を開発した。里山をイメージし樹木や草地などを3Dで精巧に表現した空間で、放置した生ごみにクマが寄ってきたり、被害に遭わないための注意点が表示されたりする。

長谷川さんはソフトウエア部門に出場。物忘れが増えたという曾祖母を心配し、認知症を予防するゲームアプリを開発した。動く画像を触って消す「タッチゲーム」、カメラに写った笑顔の回数を数える「笑顔ゲーム」など多彩な遊び方を説明した。全国大会への出場を決め、「審査員だけではなく、聞いてくれている人みんなの心に届く発表をしたい」と意気込んだ。

(清水美沙)

スマートフォンと水筒を連動させるアイデアを発表した傳農さん



クマと共存するための対策を伝えるメタバースを開発した佐久間さん

認知症予防アプリを開発し全国大会出場を決めた長谷川さん

高校の部、明桜銀賞

全日本吹奏楽コンクール

第71回全日本吹奏楽コンクール(全日本吹奏楽連盟など主催)の高校の部が22日、名古屋市の名古屋国際会議場で開かれた。東北代表として本県から出場した明桜は銀賞だった。

高校の部には30校が出場。9校が金賞だった。

(原田大生)

環境省、導入検討

ヒアリ探知犬披露

茨城・つくば市

強毒を持つ南米原産のヒアリをにおいで見つけ「お座り」の姿勢で知らせる台湾の探知犬2匹が22日、茨城県つくば市の国立環境研究所で披露された。増加傾向にあるヒアリの定着を防ごうと環境省が導入を検討している。日本滞在中の実証試験結果を踏まえ、判断する。

2匹は、台湾でヒアリ駆除に当たるビーグル犬のカビとフェイフェイ。いずれも9歳の雌。日本国内でも地中のヒアリを発見できる唯一の手法として、探知犬への期待が高まっている。22日のデモンストレーションでは地面に並ぶ複数の容器を嗅ぎ、ヒアリの死骸が入ったものの前ですぐに座った。草むらの穴に埋めた容器を探す場面でも、一度は通り過ぎてしまうなど苦労しつつも見事に嗅ぎ当てた。

既に実施した実証試験では、国内の港湾や緑地で事前に仕込んだ死骸を発見したという。環境省外来生物対策室の松本英昭室長は「騒音が大きい物流の現場でも一定程度の成果がみられた」と記者団に語った。

ヒアリの死骸の入った試験管の前で、「お座り」の姿勢で知らせる探知犬

県スポーツ少年団

創設60周年、節目祝う

秋田市 288人、177団体を表彰

県スポーツ少年団(田口將本部長)の創設60周年記念式典が22日、秋田市のANAクラウンプラザホテル秋田で開かれ、関係者約270人が節目を祝った。

田口本部長が「さまざまな課題を乗り越え60周年を迎えた。人口減や少子化が急速に進み、スポ少の役割も問われている。今後もたくさんの可能性を秘めた子どもたちのために歩んでいきたい」とあいさつした。

県スポ少の発展に寄与するなどした288人、177団体を表彰。表彰された人を代表し、2007年から8年に わたり県スポ少本部長を務めた一関俊和さんが「多くの子どもたちにとって、スポ少は初めてスポーツと出合う場となっている。今後もスポーツ秋田を支える場として発展してほしい」と謝辞を述べた。

県スポ少は、日本スポ少が創設された翌年の1963年、22団で発足した。2023年度は689団で1万1898人が活動している。

式典後、来賓で日本スポ少本部長の益子直美さんが「私が『監督が怒ってはいけない大会』を開催した理由」と題し講演。「指導者が怒ると子どもは自信やチャレンジ精神、笑顔を失う。怒りを使って指導するのではなく、子どもの才能を認め、努力を褒めて、成功を一緒に喜んでほしい」と呼びかけた。

(梅川正城)

288人、177団体を表彰した県スポーツ少年団創設60周年記念式典

内外の歴史

10月23日(月)

【県内】▽2005(平成17)年 横手平鹿8市町村が合併した新「横手市」の市長選挙は投開票が行われ、旧横手市長の五十嵐忠悦氏が初代の新「横手市」市長に▽2002(同14)年 能代市の柏子所(かしどころ)2遺跡から縄文時代後期後半(約3300年前)にトチの実のあく抜きを行ったとみられる県内最大規模の水さらし場遺構が見つかったと県埋蔵文化財センターが発表▽1999(同11)年 TDK元会長で本県名誉県民の山崎貞一氏をしのぶ会が仁賀保町(現にかほ市)で開かれ胸像の除幕、献花が行われた▽1998(同10)年 99年3月で48年の歴史に幕を下ろす鳥海町(現由利本荘市)の矢島高校笹子分校で繰り上げ閉校式▽1997(同9)年 全日本選抜軟式野球大会で全秋田が豊橋オールドボーイズ(愛知)を延長八回サヨナラで下し初優勝▽1988(昭和63)年 須恵器型中世陶器の窯跡としてわが国最北とされる二ツ井町(現能代市)駒形のエビバチ長根窯跡で三つの上窯と多数の陶器片を発見▽1985(同60)年 鷹角線の未開通区間・松葉―比立内間29・3キロの工事再開の起工式が阿仁町(現北秋田市)で行われた▽1919(大正8)年 帝国飛行協会主催の東京―大阪間郵便飛行往復競技で飛行家の佐藤章=仙南村(現美郷町)出身=が優勝

▽1972年 「風雪の群像」爆破 北海道旭川市の常磐公園で開拓の歴史を記念するブロンズ像「風雪の群像」が爆破された。後に東アジア反日武装戦線「狼」を名乗り三菱重工爆破事件などを起こすグループの犯行。像をアイヌ民族同化政策の象徴とみなした。77年に再建▽1954年 西ドイツの主権回復を承認 西側諸国が西ドイツの主権回復や再軍備を承認するパリ協定に調印した。西ドイツの北大西洋条約機構(NATO)加盟でも合意。冷戦激化により、欧州正面での軍備強化が求められた。翌年の協定発効で西ドイツの占領状態が終結した

ミルハス情報

(23日)

▼美川憲一&コロッケ公演=大ホール。①午後2時②午後6時。いずれも当日券あり▼第23回秋田市老人クラブ文化祭=午後1時、中ホール。一般入場無料。問い合わせはミルハス☎018・838・5822

さきがけホール情報

(23日)

▼休館。☎018・888・1800

漆も、闇の中で蝋燭(ろうそく)の灯で見るから美しい

目に痛いほど日差しの強い日に近所を歩いていたら、赤い色の車や看板がいつもよりずっと鮮やかに見えるので驚いた。調べてみると、これはプルキニェ現象と呼ばれるものらしい。人間の網膜は明るいと赤が鮮やかに見え、暗いと青が鮮やかに見える。

この話を妻にしたら、「そういえば」と言って、アメリカ西海岸に留学していた友人の体験談を教えてくれた。その友人は留学先できれいな色の服をたくさん買って帰国した。ところが日本の日差しのもとだと、どれもくすんだ色にしか見えなかった。光の強さが違えば、同じものがまったく違って見えるのだ。

アメリカ西海岸の洋服の色彩が強い日差しの下で映えるように、日本の工芸品や美術品は、暗がりの中でその美が際立つようなものが多い。明治時代、横浜に日本初のガス灯が設置されたが、それまでの日本の夜は、障子を通して差し込む月明かり、あるいはろうそくやあんどんのぼんやりとした光に照らされていた。

今、この場所とは違う光の下に置かれた時、初めて本当の美が現れる物がある。それに気付くと、生活は一段と豊かさを増す。

山口源兵衛は1738年に創業した京都の帯屋誉田屋源兵衛の10代目当主。

(翻訳家・矢口誠)

新 きょうの言葉

山口源兵衛(やまぐちげんべえ)

シリーズ 時代を語る

中嶋さん、議論リード

須田 精一 ㊲

県が構想する国際系大学の理念や設置形態を議論した検討委員会が終わった。これでお役御免と思っていたが、引き続き、創設準備委員会の委員を委嘱された。カリキュラム編成や教員の募集方法、大学の運営方式など開学に向けた具体的なことを話し合う会議だ。

初会合は平成14(2002)年3月。この年の1月、すったもんだの末に県議会が開学にゴーサインを出していた。

委員は元国連事務次長の明石康さん、東京外国語大学学長を退任したばかりの中嶋嶺雄さん、多摩大学名誉学長の野田一夫さんなどそうそうたるメンバー。準備委に助言する顧問会議には、湯沢市出身でニューヨーク大学教授の佐藤隆三さんがいた。

開学後の国際教養大の会議で学長の中嶋さん(左)と

論客ぞろいの会議では聞き役に回ることが多かった。いつもがんがんしゃべる自分には珍しいことだ。

議論をぐいぐい引っ張ったのが、後に国際教養大学の初代学長となる中嶋さん。検討委では座長、準備委では委員長だったが、会議の進行役というレベルを超えて「日本にない、ユニークな大学をつくろう」と熱く語っていた。

在京の委員が多く、会議はいつも東京開催。2年にわたり10回以上あった。皆さん多忙で、毎回出席していたのは中嶋さんと自分ぐらいじゃなかったかな。あの東京外語大の学長が田舎の大学のことでこんなに真剣になってくれている。彼の心意気を買わなくてはという気になった。

授業は全て英語、留学は必修、1年間の寮生活、幅広い教養の習得―。唯一無二の国際教養大学は16年4月、雄和町(現秋田市)に開学した。全国から注目され、びっくりするぐらい高い志願倍率でスタートを切った。

教養大がもうすぐ10周年を迎えようという25年、中嶋さんが亡くなった。残念でならない。教養大には中嶋さんの情熱を引き継いでいってほしい。自分も微力ながら応援していきたい。

すだ・せいいち 昭和16(1941)年生まれ。由利工業相談役。由利本荘市西目町

キミらしさ
加トケンで
サキホコレ

私たちと係わるすべての人の幸せを建設る
加藤建設株式会社
KATO Construction Co., Ltd.

加藤建設は、県内を中心とした民間・商業施設をはじめ、住宅、マンション、アパート等の建設や公共事業での建築・土木工事を請け負う総合建設業を営む企業です。

自分らしく幸せになりたいひとへ
採用情報はこちら

主催 文芸社
後援 秋田魁新報社

出版相談会

作品にまつわる
あらゆるお話を
聴かせてください

自分の作品の評価を知りたい
終活として自分史をまとめたい
書き溜めたエッセイをまとめたい
出版に関する費用を知りたい
書店に並ぶ本を作りたい
小説を発表したい
郷土史をまとめたい
詩集、句集、歌集をまとめたい

おひとり様1時間
個別面談形式
参加費無料

ご予約お問い合わせ フリーコール 0120-55-1148
定員になり次第、受付を終了いたします。
定員30名

秋田
開催日 11/2(木)10:00-18:00 11/3(金祝)10:00-17:00
会場 秋田魁新報社1階「さきがけホール セミナールーム」
秋田市山王臨海町1-1
※お車でご来場の際は新聞社駐車場(無料)をご利用いただけます。

○作品を拝見し、弊社独自の刊行基準を踏まえた上で、自費出版のご案内をしています。○ご応募の際にご記入いただく個人情報は、連絡等に使用するもので、外部に提供することは一切ありません。

文芸社
〒160-0022
東京都新宿区新宿1-10-1
ご予約はFAX、メール、二次元コードからも可能です。
FAX:0120-22-6526
soudankai@bungeisha.co.jp